

二〇一六年二月一六日

初雪の客は富山の薬売り
会釈せしマスク美人は誰かしら

よし女
やよい

二〇一六年二月一五日

凍空にオリオン近し磯泊まり
凧に相うちあへる祈願絵馬
奥院へ磴百段の落葉踏む

たか子
豆狸
ぼんこ

二〇一六年二月一四日

経本に母の筆跡報恩講
紙漉きに情熱捧げ村を出ず
冬木立夕日まとひて茜さす
ぼる市やふいに鳴り出す鳩時計
ケアハウス窓にきらめく聖樹かな
朝まだき山湖に霧の浮き立ちぬ
猫の尾の右に左に障子影

こすもす
宏虎
まゆ
豆狸
ぼんこ
さつき
治男

二〇一六年二月一三日

水面切る鯉の背びれや池小春
塚なせる無縁仏に冬日燦
銀白に波うつ風の芒原
竹林の冬日は翳り易きかな
頑張れと雪吊りされし五葉松

ひかり
さつき
克子
まゆ
ともえ

二〇一六年二月二日

あたたかや風に舞ひては恋の絵馬
木枯らしに翻弄されし風見鶏
野に川に玉の日遊ぶ小春かな
唱和して今日は善女や報恩講
墓どころ明るうしたる紅葉影
身のこなし踊るがごとく紙を漉く

菜々
智恵子
まゆ
はく子
さつき
宏虎

二〇一六年二月一日

白壁に影のおどりとて銀杏散る
髪切りし首筋を撫づ隙間風
誰彼もスマホに夢中日向ぼこ

さつき
智恵子
満天

二〇一六年二月一日

出走を待つ駿馬らの息白し
下校子ら畦迷路とす麦は芽に
大根焚夕餉の苞に持ち帰る
煤逃げの一日を古都へ逃避行
にぎり湯に浸かり一望もみじ山
まねき揚げ賑はふ京の十二月

宏虎
三刀
なつき
菜々
智恵子
はく子

毎日句会みの選・二〇一六年二月一八日